

## 7-28 加賀－福井沖の断層分布 Distribution of the faults off Kaga-Fukui

海上保安庁海洋情報部

Hydrographic and Oceanographic Department, Japan Coast Guard

調査は平成15年8月から9月にかけて実施した。調査にはマルチビーム音響測深機（シービーム2000）、シングルビーム音響測深機（DESO20）、スパーカー（発振エネルギー1500J、発振間隔2秒）、チャープソナー（発振エネルギー30J、発振間隔0.5秒）を使用した。主測線方向は東西とし、これに直交する交差線を設けた。主測線間隔は0.5海里、交差線間隔は5海里とした。

調査区域には大陸棚、越前堆列の一部及び大陸斜面が包含されている。大陸棚の外縁水深は北部では110m前後、南部では130m前後を示し、大陸棚外縁部は明瞭な傾斜変換点が認められる。安島岬の前面では大陸棚が北西方向に張り出し、75～110mでは顕著な平坦面を形成している。越前堆列の一部である松出シ、大グリは北東－南西方向に長軸をもつ高まりである。大陸斜面の等深線の一般的走向は北部の松出シ、大グリ以北では北東－南西、南部では南北である。越前堆列北東端の前面には凹地が形成されている。

調査海域の地層は、音響的層相や不整合を基準にし、上位からⅠ～Ⅶ層に区分した。断層の分布は、大陸棚の沿岸部及び大陸斜面に認められる。走向は北西－南東、北北西－南南東、北北東－南南西、南北とあらゆる方向を示すが、北西－南東が卓越している。断層による変位はⅡ層以下までで、Ⅰ層におよんでいるものはない。Ⅱ層を変位させる断層は、福井港西方の大陸斜面や大グリ of 北西方に位置している。沿岸部に位置する断層はⅢ層以下を変位させるものである。断層の長さは2～6kmであるが、調査海域の北方及び西方に連続すると推定される断層もある。

### 参 考 文 献

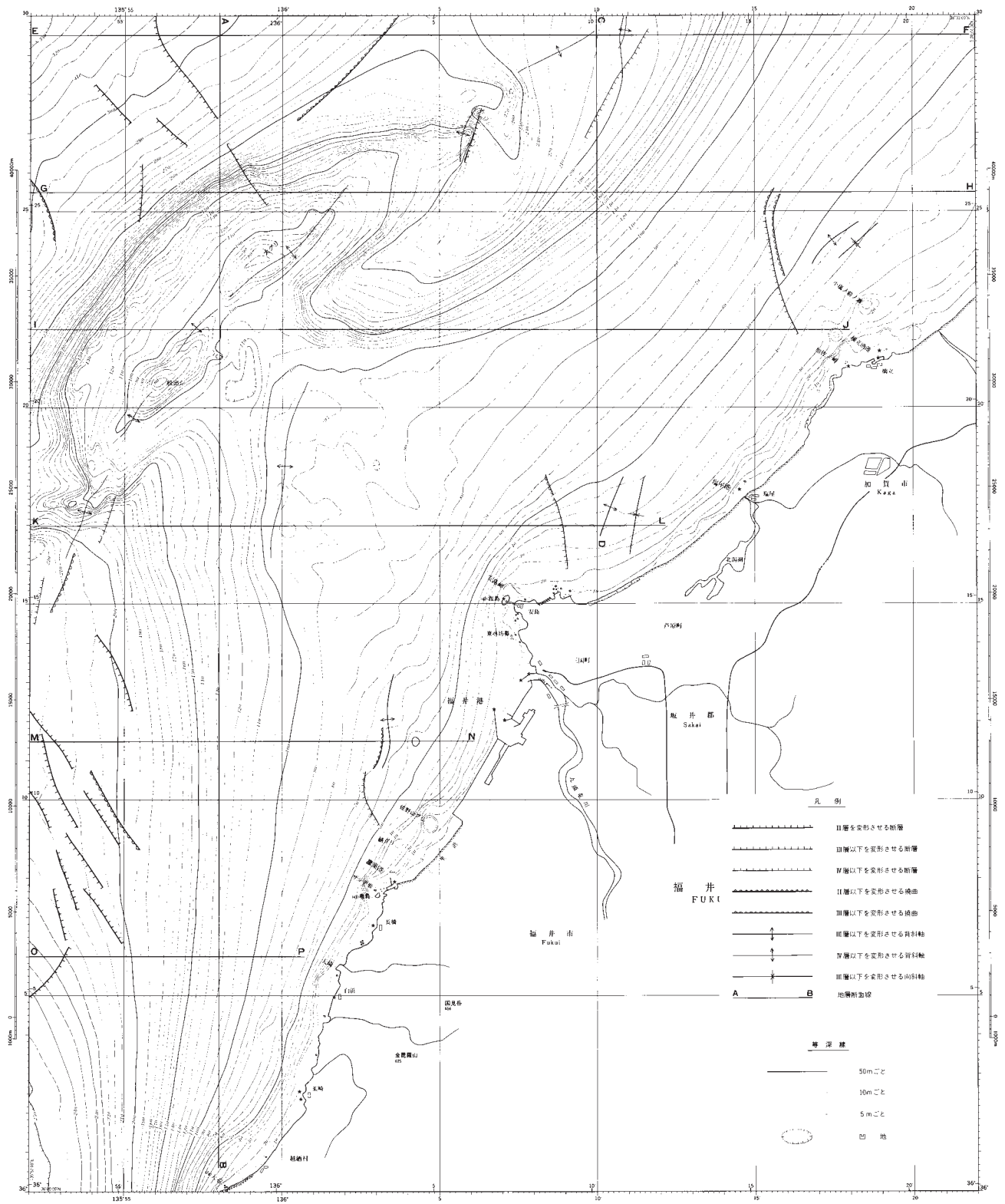
- 1) 海上保安庁水路部：沿岸の海の基本図「若狭湾東部」, (1980)
- 2) 活断層研究会編：「新編」日本の活断層, 東京大学出版会, (1991)
- 3) 山本博文・上嶋正人・岸本清行：海洋地質図 50, 「ゲンタツ瀬海底地質図」説明書, 地質調査所, (2000)



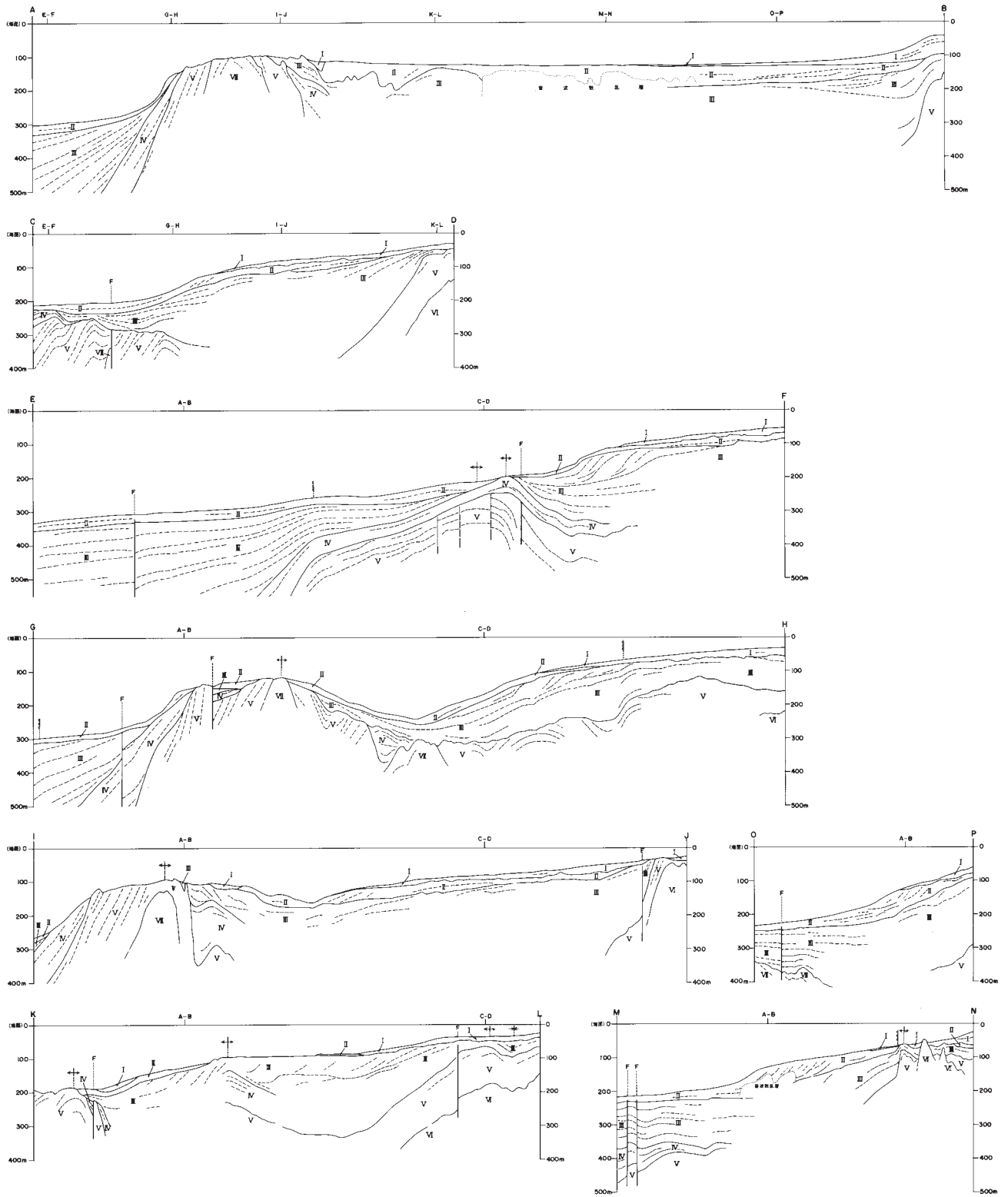
第1図 調査海域  
Fig.1 Surveyed area.

第1表 層序区分表  
Table 1 Stratigraphic division.

時 代 Geological Age		*陸上地質層序 Land Stratigraphy	音波探査層序 Acoustical Stratigraphy in the sea area
第四紀 Quaternary	完新世 Holocene	沖積層 Alluvium	I
	更新世 Pleistocene	段丘堆積物 Terrace Deposits	II III
新第三紀 Neogene	鮮新世 Pliocene		IV
	中新世 Miocene	米ヶ脇累層 Komegawaki Formation	V
		加佐ノ岬累層 Kasanomisaki Formation 国見累層 Kunimi Formation	VI
	糸生累層 Ito'o Formation	VII	



第2図 加賀-福井沖海底地質構造図  
 Fig.2 Submarine geological structure map off Kaga-Fukui.



第3図 加賀-福井沖海底地質断面図  
 Fig.3 Submarine geological section off Kaga-Fukui.